

恰野集

戀上

土岐文庫

文庫17

W46

7



文庫 17
W46
7

恋

忍不言恋

難言出恋

言始恋

忍恋

忍入恋

依忍難逢恋

初聞恋

聞久恋

欲見恋

近見恋

初恋初戀

觀身不言恋

不洩思恋

詞出恋

忍久恋

難忍恋

乍洩忍恋

立聞恋

遠聞恋

且見恋

見見獨居恋

不言恋

思身程不言恋

洩始恋

和詞恋

忍經年恋

依忍增恋

夢中忍恋

聞音恋

初見恋

僅見恋

乍見隱恋

不言出恋

欲言出恋

言出恋

曰詞荒恋

忍淚恋

忍切恋

不聞恋

聞聲恋

見恋

纔見恋

稀見恋

未言出恋

欲出詞恋

初言恋

言出後悔恋

知身忍恋

隔河忍恋

聞恋

久聞恋

未見恋

不見恋

見衣恋

恋上目録一

昭和六十年二月一日
王岐山書唐氏寄

010185194910

| | | | | |
|------|------|-------|-------|--------|
| 夢中見恋 | 白地忘 | 恋書 | 初遣書恋 | 通書恋 |
| 忍傳書恋 | 忍通恋書 | 稀通書恋 | 不見書恋 | 返書忘 |
| 被返書忘 | 送書待恋 | 見書恋 | 見手跡恋 | 不見文恋 |
| 不返事恋 | 無返報恋 | 初見返事恋 | 適見返事忘 | 見返事無字恋 |
| 違文忘 | 失返事恋 | 散文忘 | 別無書恋 | 歸無書恋 |
| 不通書恋 | 尋恋 | 尋所報恋 | 尋緣恋 | 忍尋緣恋 |
| 初尋緣恋 | 睦緣恋 | 遠尋恋 | 尋失恋 | 尋空恋 |
| 尋不遇恋 | 不尋得恋 | 祈恋 | 祈請恋 | 祈神恋 |
| 祈佛恋 | 祈久恋 | 久祈恋 | 經年祈恋 | 祈神增恋 |
| 祈身恋 | 依恋祈身 | 祈難逢恋 | 祈不逢恋 | 祈空恋 |
| 誓恋 | 念願恋 | 憑示現恋 | 契恋 | 恋契 |

| | | | | |
|-------|------|-------|------|-------|
| 契後恋 | 契行末忘 | 契來世恋 | 契後世恋 | 契他生恋 |
| 契誓言恋 | 憑契恋 | 途中契恋 | 夢中契忘 | 契久恋 |
| 契後少恋 | 契經年恋 | 幼年契恋 | 契少人恋 | 契夏恋 |
| 契暮秋恋 | 契月夜恋 | 契日中忘 | 契夕恋 | 契今夜恋 |
| 契明日恋 | 契不來恋 | 雖契不來恋 | 變契忘 | 契夜恋 |
| 契絶恋 | 契後絶恋 | 契空恋 | 契違約恋 | 悔前生契恋 |
| 馴恋 | 一所恋 | 憑恋 | 不憑恋 | 憑偽恋 |
| 憑詞恋 | 憑深言恋 | 每夜憑恋 | 憑不來恋 | 憑人妻恋 |
| 詭恋 | 推量恋 | 疑恋 | 成疑心恋 | 疑真偽恋 |
| 疑真恋 | 疑行末恋 | 不逢恋 | 未遇恋 | 見不逢恋 |
| 雖見不逢恋 | 忍不逢恋 | 依忍難逢恋 | 馴不逢恋 | 憑不逢恋 |

| | | | | |
|-------|------|-------|------|-------|
| 尋不逢戀 | 逢難戀 | 近不逢戀 | 契不逢戀 | 不來戀 |
| 來不留戀 | 來不啻 | 夜不留 | 來不會戀 | 乍來不逢戀 |
| 行不會戀 | 不逢歸戀 | 通不過戀 | 過門戀 | 過門不告戀 |
| 過門不入戀 | 立門忘 | 立門空曙戀 | 不開門戀 | 偽戀 |
| 悅偽言戀 | 待戀 | 待使戀 | 待便戀 | 忍待戀 |
| 乍立待戀 | 不憑待戀 | 曉待戀 | 夕待戀 | 薄暮待戀 |
| 每夕待戀 | 夜之待戀 | 連夜待戀 | 每夜待戀 | 歷夜待戀 |
| 待夜深戀 | 深夜待戀 | 久待戀 | 經年待戀 | 遠境待戀 |
| 待百夜戀 | 不堪待戀 | 待不來戀 | 待空戀 | 絕後待戀 |
| 不待戀 | 違約戀 | 當夜違約戀 | 臨期變戀 | 臨期變約戀 |
| 乍期違約戀 | 契違約戀 | 逢戀 | 初逢戀 | 俄逢戀 |

| | | | | |
|-------|-------|------|------|-------|
| 不慮逢戀 | 思逢戀 | 夕逢戀 | 初夜逢戀 | 夜深逢戀 |
| 及曉遂會戀 | 待遇戀 | 逢切戀 | 逢後切戀 | 會後戀 |
| 會後忍戀 | 旅逢戀 | 旅宿逢戀 | 夢逢戀 | 夢中逢戀 |
| 夢中會戀 | 絕後逢戀 | 絕後會戀 | 會後秘戀 | 稀逢戀 |
| 適逢戀 | 邂逅會戀 | 時之逢戀 | 隔夜逢戀 | 稀會不絕戀 |
| 臥無實戀 | 乍卧無實戀 | 來無實戀 | 會無實戀 | 逢無實戀 |
| 語戀 | 無二語戀 | 不語終戀 | 別戀 | 欲別戀 |
| 逢別戀 | 念別戀 | 急別戀 | 忍別戀 | 契別戀 |
| 互別戀 | 厭別戀 | 惜別戀 | 深更別戀 | 曉別戀 |
| 惜曉別戀 | 恨別戀 | 恨鳥別戀 | 遠別戀 | 夢別戀 |
| 別不知戀 | 歸戀 | 曉欲歸戀 | 朝歸戀 | 深夜歸戀 |

| | | | | |
|--------|-------|--------|-------|-------|
| 深更歸戀 | 雨中歸戀 | 從門歸戀 | 空歸戀 | 喚不歸 |
| 忍歸戀 | 隨戀 | 後朝戀 | 後朝恨戀 | 後朝切戀 |
| 厭後朝戀 | 後朝顯戀 | 後朝增戀 | 違不逢戀 | 逢不逢戀 |
| 逢後難逢戀 | 逢後難期戀 | 一會後不遇戀 | 別後難期戀 | 會後不會戀 |
| 君後會知何日 | 絕不逢戀 | 逢後不通戀 | 名立戀 | 歎名戀 |
| 惜名戀 | 惜人名戀 | 不惜名戀 | 無名立戀 | 歎無名戀 |
| 隱名戀 | 顯戀 | 欲顯戀 | 淚顯戀 | 依淚顯戀 |
| 絕後顯戀 | 顯絕戀 | 增戀 | 漸增戀 | 馴增戀 |
| 逐日增戀 | 隨日增戀 | 送日增戀 | 雨中增戀 | 入夏增戀 |
| 月增戀 | 夢後增戀 | 依哥戀增 | 聞鹿增戀 | 鹿聲增戀 |
| 虫聲增戀 | 逢增戀 | 逢後增戀 | 增思戀 | 切戀 |

| | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
| 悉切 | 忘切戀 | 懇切戀 | 厭戀 | 被厭戀 | 厭身忘 |
| 厭賤戀 | 被厭賤忘 | 被厭老忘 | 見形厭戀 | 悔戀 | |
| 後悔戀 | 別悔戀 | 絕後悔戀 | 恨後悔忘 | 悔前世戀 | |
| 踈戀 | 愛戀 | 漸愛忘 | 俄愛忘 | 逢後愛忘 | |
| 愛契戀 | 不變戀 | 晚風催戀 | 忘催舊意 | 風聲催戀 | |
| 郭公催戀 | 秋風催戀 | 觸物催戀 | 驚戀 | 稀驚戀 | |
| 時之驚戀 | 絕後驚戀 | 單戀 | 負忘 | 有妨忘 | |
| 被妨人戀 | 忘為後世妨 | 忘妨道心 | 忘妨菩提 | 隱忘 | |
| 乍在隱戀 | 隱在所忘 | 不言在所忘 | 不令知拙忘 | 在所不定戀 | |
| 不知在所忘 | 忘在所忘 | 不知拙忘 | 稀忘 | 漸稀戀 | |
| 稀問戀 | 稀通戀 | 久忘 | 舊戀 | 舊事戀 | |

忘上目四終

| | | | | |
|------|------|------|-----|------|
| 近恋 | 近隣恋人 | 遠恋 | 恋遠人 | 隔恋 |
| 隔一夜恋 | 隔二夜恋 | 隔日比恋 | 隔月恋 | 隔年恋 |
| 隔年序恋 | 隔簾恋 | 隔山恋 | 隔川恋 | 隔關恋 |
| 隔關路恋 | 隔路恋 | 隔遠路恋 | 隔海恋 | 隔海路恋 |
| 隔霞恋 | | | | |

怜野々集卷之七



恋之部上

古 何とまうと恋ぬれんはしらののぶくふあらし物成 石川節女
 後 郭の恋やこまのわやちあやちりぬ恋もする小 讀人不知
 恋の初ととどたあなぬ村のこもかよ恋もさあかど 全
 後 秋のやぶらぶらるる愛のこまざりかどあもるるりけ 延喜御製
 後 あひももるり物成のまふあらし人の恋もする 讀人不識
 後 家やあしんやつよとちもあがる神と神とひそくが 同
 後 心をむつて物成といひ恋てるるらとらふかどあらし 同
 後 福とあまを神の朽てもせぬちり根屋ととどたせがら 和泉式部
 後 心をくもいそがぶてよあぬ屋も小唄を社見すづらる 全
 後 在の月をすはしてあまといか人の名跡とあが先く物成 全
 後 分の上も人の心をたぬまらととどたあくも成のみをむく 中務
 後 いそせんあし打ぬる較もあしと秋の愛とだまらん 家隆

言出後悔忌

思ひ忌

あつたかろくたよくまきふ小田小粒一の意のたひとまか
^{後括}らひわまりいひゆる初小粒うねふと人かられぬ
 物 打如てんあや物の中へんきりまはさく敷き入る船
 可 なる為ふふとたねをたすかた改むの

あつたかろくたよくまきふ小田小粒一の意のたひとまか
 らひわまりいひゆる初小粒うねふと人かられぬ
 物 打如てんあや物の中へんきりまはさく敷き入る船
 可 なる為ふふとたねをたすかた改むの

季定
 人命
 教を取王
 續入云
 等
 等
 等
 元補
 元補
 元補

あつたかろくたよくまきふ小田小粒一の意のたひとまか
 らひわまりいひゆる初小粒うねふと人かられぬ
 物 打如てんあや物の中へんきりまはさく敷き入る船
 可 なる為ふふとたねをたすかた改むの

忠見
 後入雲
 了律
 右大臣
 実り
 稷房
 光行
 彩政
 列當
 堀内右
 頼輔
 久我内大
 三河

千
 〃 俊康
 〃 清輔
 〃 高遠
 〃 権佐
 〃 入道花実
 〃 佐藤
 〃 俊康
 〃 宗家
 〃 関白左
 〃 多後漢人
 〃 雅通
 〃 惟成

〃 智性
 〃 三吉
 〃 隆信
 〃 俊康
 〃 相模
 〃 少将
 〃 尾房
 〃 小室
 〃 西園寺
 〃 為家
 〃 定家
 〃 九条右
 〃 季保
 〃 九条右内

忍久意

代 何ぞをわふて先てあつてふいを後の光り足ふかき
 拾 才のいそふらふのやうなればわふれぬよけれ
 人 かねねわふむいふまゝ色あつてぬのこころあはれ
 午 出ささうにやうつとほつとほつといはれどつとつとつと
 勅 いそとわふれぬよまうむむむいそつとつとつとつと
 六 とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 七 雅波ごすくを後史のちあひびくをえんやことばは
 八 年つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 九 比あれいむとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 拾 人かたねのうらやうとつとつとつとつとつとつとつとつと
 拾一 われていあつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 拾二 多うたつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 拾三 番袖のわいと人のいそ先だのぬとつとつとつとつとつとつと
 拾四 ちんぬんにわふれぬとつとつとつとつとつとつとつとつと
 われぬと

松泉式部 教忠 小西平太政 伊光 不識讀人 海部 後人さふ 通忠 教忠 後後人 式子内 日豊 とつとつと ね後

忍継意

忍源意

忍人意

金 いかふとん教つねあふとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 銅 出物并
 古 ちのさの言ふのしは音あつとつとつとつとつとつとつとつと
 五 いそせの言のつら打懸む人のいそせつとつとつとつとつとつと
 六 持つてひよとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 七 片涼をたねをさるのさつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 八 後 忍じん小思ふれねほきあつとつとつとつとつとつとつとつと
 九 ちんぬん小思ふれねほきあつとつとつとつとつとつとつとつと
 十 ちんぬん小思ふれねほきあつとつとつとつとつとつとつとつと
 十一 ちんぬん小思ふれねほきあつとつとつとつとつとつとつとつと
 十二 ちんぬん小思ふれねほきあつとつとつとつとつとつとつとつと
 十三 ちんぬん小思ふれねほきあつとつとつとつとつとつとつとつと
 十四 ちんぬん小思ふれねほきあつとつとつとつとつとつとつとつと
 十五 ちんぬん小思ふれねほきあつとつとつとつとつとつとつとつと
 十六 ちんぬん小思ふれねほきあつとつとつとつとつとつとつとつと
 十七 ちんぬん小思ふれねほきあつとつとつとつとつとつとつとつと
 十八 ちんぬん小思ふれねほきあつとつとつとつとつとつとつとつと
 十九 ちんぬん小思ふれねほきあつとつとつとつとつとつとつとつと
 二十 ちんぬん小思ふれねほきあつとつとつとつとつとつとつとつと
 二十 ちんぬん小思ふれねほきあつとつとつとつとつとつとつとつと

後人さ知 大和直旨 乃河 ありてあち 賢者 光ふ ち後後人

未見恋

不見恋

後
 天川...の...
 西支茶左
 不後後人
 費之
 友別
 後
 同
 同
 忠房
 後人不知
 西宮前左
 後人不知
 美之

歎見恋

目見恋
僅見恋

後人不知
 解党
 西宮前左
 後人不知
 美之
 後
 同
 同
 忠房
 後人不知
 西宮前左
 後人不知
 美之

終見恋

古
 加次が世の君まはらしてせむる景はつるふとそそ君下 忠岑
 山梅屋のまはらしてせむるふとそそ人をも恋しつらん 豊之
 づらふふとそそ汁あや漢子あひり下知ね恋ふべし 等
 愛らふ下けしむれきものふとそそあひのふとそそ 頼朝
 とあそそもあひの地と花鳥ほのふとそそ人をも恋しつらん
 秋
 あれ恋しつらんふとそそあひの地と花鳥ほのふとそそ 小西
 危言の旨まふ縁が及美景はつるふとそそ人をも恋しつらん 好忠
 物
 山はれ花鳥ほのふとそそあひの地と花鳥ほのふとそそ 山世
 春は波のふとそそあひの地と花鳥ほのふとそそ 人をも恋しつらん 家隆
 づらふふとそそ汁あや漢子あひり下知ね恋ふべし 清輔
 夕月と戀ふ人をも恋しつらん天雲とれねあひの地と花鳥ほのふとそそ 不識
 千
 深くは尺の破まはらしてせむるふとそそあひの地と花鳥ほのふとそそ 長能
 代
 若源ふとそそあひの地と花鳥ほのふとそそあひの地と花鳥ほのふとそそ 俊成

白地恋
長中恋

代
 加次が世の君まはらしてせむる景はつるふとそそ君下 大輔
 山梅屋のまはらしてせむるふとそそ人をも恋しつらん 隆季
 づらふふとそそ汁あや漢子あひり下知ね恋ふべし 高松
 愛らふ下けしむれきものふとそそあひのふとそそ 後
 とあそそもあひの地と花鳥ほのふとそそ人をも恋しつらん 御製
 秋
 あれ恋しつらんふとそそあひの地と花鳥ほのふとそそ 市原王
 危言の旨まふ縁が及美景はつるふとそそ人をも恋しつらん 安都
 物
 山はれ花鳥ほのふとそそあひの地と花鳥ほのふとそそ 式子
 春は波のふとそそあひの地と花鳥ほのふとそそ 人をも恋しつらん 不識
 づらふふとそそ汁あや漢子あひり下知ね恋ふべし 讀人
 夕月と戀ふ人をも恋しつらん天雲とれねあひの地と花鳥ほのふとそそ 海園
 千
 深くは尺の破まはらしてせむるふとそそあひの地と花鳥ほのふとそそ
 代
 若源ふとそそあひの地と花鳥ほのふとそそあひの地と花鳥ほのふとそそ

恋書

全 恋してしりしは異言歳夜と身ははくせんはづ〜
 千 する書下落の便小わらわて無くとぞあやえれこれ
 初 ちがはれはと恨とくははれをきわぬめい便心な
 月 心川恋すふとむあぐよとわき流すあや紐のね
 後 無いもぐ二もたれどむまにうきとあなぬはれ
 物 後子なるまのまのしとを初る締おるまかど
 代 ちがはれはと恨とくははれをきわぬめい便心な
 後 何うををらんたれし初んをりやる初とをたれ
 秋 ありをたれし初んをりやる初とをたれ
 秋 ありをたれし初んをりやる初とをたれ
 千 氷笠の初をりやる初とをたれ
 千 後とれりやる初とをたれ
 人 ちがはれはと恨とくははれをきわぬめい便心な
 玉 ちがはれはと恨とくははれをきわぬめい便心な

頭補 乳愛 狂政 別當 有房 定文 後生 東三島 後後人 い世 家寶 右大臣 後入ふ

初遣書恋

通書恋

忍傳書恋

忍通書恋

稀通書恋

不見書恋

後 大空のり〜
 全 ちがはれはと恨とくははれをきわぬめい便心な
 秋 ありをたれし初んをりやる初とをたれ
 秋 ありをたれし初んをりやる初とをたれ
 千 氷笠の初をりやる初とをたれ
 千 後とれりやる初とをたれ
 人 ちがはれはと恨とくははれをきわぬめい便心な
 玉 ちがはれはと恨とくははれをきわぬめい便心な

美濃 信濃 野照 寧和内侍 愛方 左衛門 後今知 通経 ねむり 聖々 顯因 不識讀人 經正

返書恋

被返書恋

送書待恋

見書恋

見字跡恋

不見書恋

と返り恋

無返報恋

見返事無字恋
初見返事恋
通見返事恋

月 玉手紙渡りくちかきつらぬをえくやまきれ

金 心のこころいぬかきつらぬをえくやまきれ

干 ちとろくちとろくちとろくちとろくちとろくち

代 ちとろくちとろくちとろくちとろくちとろくち

古 ちとろくちとろくちとろくちとろくちとろくち

古 ちとろくちとろくちとろくちとろくちとろくち

古 ちとろくちとろくちとろくちとろくちとろくち

古 ちとろくちとろくちとろくちとろくちとろくち

古 ちとろくちとろくちとろくちとろくちとろくち

古 ちとろくちとろくちとろくちとろくちとろくち

古 ちとろくちとろくちとろくちとろくちとろくち

古 ちとろくちとろくちとろくちとろくちとろくち

古 ちとろくちとろくちとろくちとろくちとろくち

古 ちとろくちとろくちとろくちとろくちとろくち

隆幸

空人

性家

賢方

と美介

赤色

清信

朝光

と後後人

道勝

おめろ

と美介

と美介

見返事無字恋

遣文恋

失返り恋

散文恋

別ラを書恋

帰らぬ恋

秋 ちとろくちとろくちとろくちとろくちとろくち

秋 ちとろくちとろくちとろくちとろくちとろくち

秋 ちとろくちとろくちとろくちとろくちとろくち

秋 ちとろくちとろくちとろくちとろくちとろくち

秋 ちとろくちとろくちとろくちとろくちとろくち

秋 ちとろくちとろくちとろくちとろくちとろくち

秋 ちとろくちとろくちとろくちとろくちとろくち

秋 ちとろくちとろくちとろくちとろくちとろくち

秋 ちとろくちとろくちとろくちとろくちとろくち

秋 ちとろくちとろくちとろくちとろくちとろくち

秋 ちとろくちとろくちとろくちとろくちとろくち

秋 ちとろくちとろくちとろくちとろくちとろくち

秋 ちとろくちとろくちとろくちとろくちとろくち

勝家

後人

いと

諸人

西尾

と美介

と美介

と美介

大武

延喜御製

右京

諸人

祈請恋

歳秋かあまのしをわて貴舟川神小島なる地なる
 出振するなる小川の河風小祈とつる志の小流に
 代ちとる神のま向のしをすまふ人の人と
 久方天世神のゆらぐ初をて歳とを志源の神
 ころ夜をのつめは小いづれ人神とび渡る家かこむ小
 ちをいあふのまふねと並てわを人命の神とる
 大島の神とあまのんか意のふ人の中やうな年
 初つて初づる初流川をわもせよとまねわやと
 月いとも神とどれむわのまふとつる中河とせと
 流のあふとすまふとらふねとわがなるふとつと
 ちとれとあふととどれつる八百方の神のまふく
 ちとら神とまふの神とらふ家とる志とらあ
 初とる志とらふと物とらふとらふの神とらわてと
 伊衡 後人志 朱助 後人志 伊衡

祈神恋

祈神恋 後人志
 祈久恋 国信
 久祈恋 上住
 後年祈恋 ねあふね
 祈神増恋 後人志
 祈身恋 後人志
 依恋祈身 後人志
 祈路會恋 後人志
 祈不逢恋 後人志
 祈空恋 後人志

千 ちかろる人とのつをのらうとてあふれといのね地と
 月 志とらとて神小祈をん神のあ後へます求小と
 初 求とね祈の契は初流ととのけ鐘のまの夕雲
 初 之見道へ天世神のまねとらふとらふとね君の家
 代 ちとれとあふととね地とらふとらふとらふとい
 後 ちとらとる神と再結されぬとらふとらふとらふと
 初 後年祈恋とらふとらふとらふとらふとらふとらふと
 月 ちとれとあふととて中と小島とらふとらふとらふと
 男 ちとれとあふととらふとらふとらふとらふとらふと
 女 ちとれとあふととらふとらふとらふとらふとらふと
 後 ちとれとあふととらふとらふとらふとらふとらふと
 千 ちとれとあふととらふとらふとらふとらふとらふと
 後 ちとれとあふととらふとらふとらふとらふとらふと
 千 ちとれとあふととらふとらふとらふとらふとらふと
 後 ちとれとあふととらふとらふとらふとらふとらふと

愛愛急

愛急急

愛終急

愛後終急

愛空急

愛遠急

千 ところぐど後世せむと愛なるもむら小をに下替るを
 代 志る斗愛し申もねりたるは世小人をねりたるは
 千 志れどとせよふらむのこを学ばし愛しこの後
 千 君やのね家もやわねおぢつをねりこの皆終り
 代 愛ありこのをぐふだのしははるるくや終り
 代 申も小ねむ計はよの心愛さるせが恨さす
 代 儲と心ぞ人の愛さんふあさるいめ世をほそれ
 月 流れてとれりこり糸の後のこせりよ小ぞ有る
 代 少くね愛のこをくらす世小涙ををね申と家ね
 代 美代と愛しこのいびく小人こく小ねねよくれ
 代 けうあぐとね命と難まう家ここのうとる世
 代 いせの海に流小とするうを貝むすね小世と考つ
 代 人のを後へ家をねりく人たててくるが体
 代 人こる若いこくど家小を愛し月小小をえ
 拾遺地

悔前主愛急

剛急

一研急

強急

全 此の世に愛とまぶはあつ人せはうと心むる
 代 人小ふいりぬるこを愛さんまうし世社とすなり
 代 志ののりし地焼家なるれを志ちと相いれれ
 代 憐れぬのいと小うすれ衣衣ねり人相おやの
 代 くとく又まうすまこれけいねだなるこ人い
 代 唐衣るねが身小祐まつりねあけのあやい人
 代 志むく魚小るやと志志出されね相いん
 代 志とせいと結人小されうもあつたひて
 代 新ゆる小ふ人のまねがや途なねさ小
 代 冬への炭焼衣されねと人さ人の光の身相は
 代 何とぞつりるにのこをいぬるこか地とや
 代 志のこつりなき相いさるりけとくわ
 代 照月の光とあがりととるる面をふの
 代 志くして後ト何とんとなぐさるる
 上総
 不知後人
 美ツね
 後人志
 系式玉
 美人
 若若太下
 好忠
 志るふ
 讀人不知
 圓融院
 志るふ

憑人妻恋
詠恋

推量恋

疑恋

代 ちよとむ秋のそはれはもろれ枝りせとて鏡小きまは 左大臣
 後 唐衣うそ枝まね時どよ人の花まといふと相ころ 若色
 可 浜ち原と地小志おゆをらと何りんとまをを思ひて 不知讀人
 初 夕のまのゆふとてふひやれ縁はのこは月日と 和泉女
 子 魚とららりりこぞう一葉のこも汁飲させんとい 加賀
 代 いかせんこひきんこひきんわら増こ小浪をん 鍾正
 " うれ方を何ふこ思ひしは光らねるふとるる物と 和泉式部
 古 ちよ色小鏡ちよらちよとれく小の紅葉さゆだ 藤原
 " 秋風小のみのけはちよ人のゆふとどどと 若色
 " 絶はりわすれ川のなまなばらと人のおをり 後人
 後 ちよとねふちよとこころとこころいふちよとこころいせ いせ
 " いまはちよとこころとこころいふちよとこころいせ 中務
 " 測とちよとこころとこころいふちよとこころいせ 大輔
 " はちよとこころとこころいふちよとこころいせ 中務

疑恋心恋

代 ちよとむ秋のそはれはもろれ枝りせとて鏡小きまは 左大臣
 後 唐衣うそ枝まね時どよ人の花まといふと相ころ 若色
 可 浜ち原と地小志おゆをらと何りんとまをを思ひて 不知讀人
 初 夕のまのゆふとてふひやれ縁はのこは月日と 和泉女
 子 魚とららりりこぞう一葉のこも汁飲させんとい 加賀
 代 いかせんこひきんこひきんわら増こ小浪をん 鍾正
 " うれ方を何ふこ思ひしは光らねるふとるる物と 和泉式部
 古 ちよ色小鏡ちよらちよとれく小の紅葉さゆだ 藤原
 " 秋風小のみのけはちよ人のゆふとどどと 若色
 " 絶はりわすれ川のなまなばらと人のおをり 後人
 後 ちよとねふちよとこころとこころいふちよとこころいせ いせ
 " いまはちよとこころとこころいふちよとこころいせ 中務
 " 測とちよとこころとこころいふちよとこころいせ 大輔
 " はちよとこころとこころいふちよとこころいせ 中務

疑真偽恋

疑 〇するれと... 〇するれと... 〇するれと...
疑 〇するれと... 〇するれと... 〇するれと...
疑 〇するれと... 〇するれと... 〇するれと...
疑 〇するれと... 〇するれと... 〇するれと...
疑 〇するれと... 〇するれと... 〇するれと...
疑 〇するれと... 〇するれと... 〇するれと...
疑 〇するれと... 〇するれと... 〇するれと...
疑 〇するれと... 〇するれと... 〇するれと...
疑 〇するれと... 〇するれと... 〇するれと...
疑 〇するれと... 〇するれと... 〇するれと...

不遠恋

不 〇するれと... 〇するれと... 〇するれと...
不 〇するれと... 〇するれと... 〇するれと...
不 〇するれと... 〇するれと... 〇するれと...
不 〇するれと... 〇するれと... 〇するれと...
不 〇するれと... 〇するれと... 〇するれと...
不 〇するれと... 〇するれと... 〇するれと...
不 〇するれと... 〇するれと... 〇するれと...
不 〇するれと... 〇するれと... 〇するれと...
不 〇するれと... 〇するれと... 〇するれと...
不 〇するれと... 〇するれと... 〇するれと...

尋不逢意
逢難恋

物 ね坂に名公むねとてあつてを境つる雲代はつとてわかれ
 鎌あつて月小光れむ逢こととを井まとのと色ね(き)
 代 其こ世の神しげ中からくとも是をえを代ね後まき
 為るべ君不暇をえむ神小だいのも愛ひるかあり
 古 心もえあふた向せん物もれもゆててせゆく病ひ
 志原をねらふまを逢ことといふくかき物とせらば
 後 いかしてわくふて物とせまふ人代とせまき
 後 いかの海小松むつたまわつて流るるもてもあつ
 兄もある流るるははひもまきとるもあつてね
 古 ままの峯代村すぎゆきをわくもわくもせむ
 若 光のこ小松の白流をわくもわくもせむ
 重 遠より舟人をしてゆく舟のまきとるもあつて
 紀國之由良は漢小松むつたまわつて流るるもあつて
 逢こととせむつとて色ね小松むつたまわつて流るるもあつて

後人ふた
さかみ
後人ふた
解後
後人ふた
敦志
伊平
元方
後人ふた
長方
後人ふた

近不逢意

家 家無の意秋のうら二見ぶの意をてわ流をうけの家
 大 其の意をてなすくを川れたまきとるもあつて
 代 其奥小松といふもあつて川定もたもあつて
 古 向ふといふくわんあつて川定もたもあつて
 百 遠くわれを流してわくもわくもせむ
 古 心もえあふた向せん物もれもゆててせゆく病ひ
 後 志原をねらふまを逢ことといふくかき物とせらば
 千 いかしてわくふて物とせまふ人代とせまき
 代 其こ世の神しげ中からくとも是をえを代ね後まき
 古 為るべ君不暇をえむ神小だいのも愛ひるかあり
 古 心もえあふた向せん物もれもゆててせゆく病ひ
 後 志原をねらふまを逢ことといふくかき物とせらば
 我門の流のつとてわくもわくもせむ
 古 心もえあふた向せん物もれもゆててせゆく病ひ
 後 志原をねらふまを逢ことといふくかき物とせらば
 我門の二つとてわくもわくもせむ

家術
後人ふた
天曆神製
田村大嬢
魚屋
花山院
後人ふた
解後
後人ふた
小町

契不逢意
不來意

往不逢恋

小逢由良

袖して袖深草むす代 深草ゆくは情小何の村あり
古 恋もんむ袖小とぬらん風の音も遠くはきこふ逢らぬ
後 秋は袖小もよ一の袖の袖もろく何れもよる袖小も
古 かづもよや葉路小もよる岩橋の中もよる袖小も
古 てる場の中もよる袖小もよる袖小もよる袖小も
古 ちる流のちもよる袖小もよる袖小もよる袖小も
古 うもよる袖小もよる袖小もよる袖小もよる袖小も
古 いもよる袖小もよる袖小もよる袖小もよる袖小も
古 昔ぬもよる袖小もよる袖小もよる袖小もよる袖小も
古 いもよる袖小もよる袖小もよる袖小もよる袖小も
古 此もよる袖小もよる袖小もよる袖小もよる袖小も
古 阿そのもよる袖小もよる袖小もよる袖小もよる袖小も
古 何もよる袖小もよる袖小もよる袖小もよる袖小も
古 こぬもよる袖小もよる袖小もよる袖小もよる袖小も
古 不
古 人
古 女
古 常
古 漢
古 男
古 紫
古 人
古 人
古 風
古 不
古 人

通不遇恋

通不遇恋

通不遇恋

袖して袖深草むす代 深草ゆくは情小何の村あり
古 恋もんむ袖小とぬらん風の音も遠くはきこふ逢らぬ
後 秋は袖小もよ一の袖の袖もろく何れもよる袖小も
古 かづもよや葉路小もよる岩橋の中もよる袖小も
古 てる場の中もよる袖小もよる袖小もよる袖小も
古 ちる流のちもよる袖小もよる袖小もよる袖小も
古 うもよる袖小もよる袖小もよる袖小もよる袖小も
古 いもよる袖小もよる袖小もよる袖小もよる袖小も
古 昔ぬもよる袖小もよる袖小もよる袖小もよる袖小も
古 いもよる袖小もよる袖小もよる袖小もよる袖小も
古 此もよる袖小もよる袖小もよる袖小もよる袖小も
古 阿そのもよる袖小もよる袖小もよる袖小もよる袖小も
古 何もよる袖小もよる袖小もよる袖小もよる袖小も
古 こぬもよる袖小もよる袖小もよる袖小もよる袖小も
古 不
古 人
古 女
古 常
古 漢
古 男
古 紫
古 人
古 人
古 風
古 不
古 人

待使恋

待便恋

侍人のうきをいえず秋は月の光ぞ袖小入るる
 久々の月夕の物と打ちあきぬらんとの君と侍は
 のみの歌やいふわがこころはまづいづれも
 涙はれはらふ物とあはれいづれもいづれも
 うたはれ小侍やあはれいづれもいづれも
 いふせん望のわがこころはまづいづれも
 長月はまづいづれもいづれもいづれも
 鳴るる宿小侍のぬるるを井小侍のこころ
 友そびく海上の沖つす小侍のこころ
 秋風の吹小侍のこころはまづいづれも
 彼あはれ望の物と打ちあきぬらんとの君と侍は
 初宿はまづいづれもいづれもいづれも
 長月はまづいづれもいづれもいづれも

有家
 申勢
 本園左
 若太夫
 有家

思待恋

正待恋

不遇待恋

愛待恋

とがれきとくはけ方の若とらね家とてわがこころ
 長月はまづいづれもいづれもいづれも
 鳴るる宿小侍のぬるるを井小侍のこころ
 友そびく海上の沖つす小侍のこころ
 秋風の吹小侍のこころはまづいづれも
 彼あはれ望の物と打ちあきぬらんとの君と侍は
 初宿はまづいづれもいづれもいづれも
 長月はまづいづれもいづれもいづれも

西行
 三条右
 相模
 大津皇子
 長閑人
 和名式
 八条院
 後
 右衛門佐
 右衛門佐
 右衛門佐
 右衛門佐

夕待恋

百 思鬼のくさつむ月待一人小いし妹の我と 後人ふか
 夕なれいびきけき詩人れんやうがやんちまのれが
 月待一人小いしむて娘れが懸免ぶに夕なれその
 秋 いはすつ相と人れふんこねいふがれ松風はさう
 初 とどれ何やうに程の夕當し暮すこね恨むらう
 夕これと若派すつちの心をさくねるは直さうれ
 初 東ね人と詩と流りて暮暮のなごりさ暮れつるあ焼
 代 又月をば光をれ村の月をばかかろがやんちまのれ
 古 秋風はせぬさむけれははれと人れとをれ程を當る
 後 初 夕の程のさむけれははれと人れとをれ程を當る
 秋 恨むいささごとりのあふれをいささけれの
 後 初 夕をいささごとりのあふれをいささけれの
 秋 夕をいささごとりのあふれをいささけれの

後人ふか
 範魚
 撫政
 夕待
 後人ふか
 小町
 美山
 馬内侍
 寂蓮
 小式
 後人ふか

薄暮待恋

毎夕待恋

夜待恋

連夜待恋

毎夜待恋

歴夜待恋

毎夜待恋

初 思ふにばふれはあふれんといふ人もの君は庭に松風 美山
 初 粒あつこねははれはあふれんといふ人もの君は庭に松風 忠彦
 初 思ふにばふれはあふれんといふ人もの君は庭に松風 赤彦
 初 思ふにばふれはあふれんといふ人もの君は庭に松風 赤彦
 初 思ふにばふれはあふれんといふ人もの君は庭に松風 赤彦
 初 思ふにばふれはあふれんといふ人もの君は庭に松風 赤彦
 初 思ふにばふれはあふれんといふ人もの君は庭に松風 赤彦
 初 思ふにばふれはあふれんといふ人もの君は庭に松風 赤彦
 初 思ふにばふれはあふれんといふ人もの君は庭に松風 赤彦
 初 思ふにばふれはあふれんといふ人もの君は庭に松風 赤彦

美山
 忠彦
 赤彦
 赤彦
 赤彦
 赤彦
 赤彦
 赤彦
 赤彦
 赤彦

俄達恋
夕魚達恋

物 此のうらみはあつた事いふは二枚の愛の巻をたぐり
 娘もよとほまよと日く使めて逢ねと袖の程を
 月 心いふのまぢりもしりしはたど先ねをいふ年
 今秋は程母うん家分るまうれこの心さ
 うみんと心ひこころを夜をのねかよふを
 代 ありし社にこころはねつれ愛の波かねま一枕と
 どの葉のまをいふゆるまの涙をまの程をわてど
 年四巻てふふのいれはては積りてふに成あふ
 いくとせ小家来ねんをわたりとては君ふ
 ことこの縁のいれはたを君がまけ一とらうたまり
 今とらとんまの心程もまはまこととあやう
 何れやのまのうらまはた結いんやとと打とる
 万 心いふ人ふんとあはせは八定縁をいふ程
 約とくと加中秋のいふまはまの心程をね秋の夕暮
 有泉 長方 季経 全真 定伊 魚巻 隆臣 何村 空隆 空家 雲より 長閑人 和泉式部

思達恋

夕達恋
初夜達恋
夜涼達恋
及夜達會恋
待遇恋
遠切恋
遠後切恋
會後恋

代 初らとめ小結ぶささやとるをいふ一秋は程をたぐり
 万 大とらとんまの心程もまはまこととあやう
 後 ねえのいれはたを君がまけ一とらうたまり
 六 運は海にまをいふゆるまの涙をまの程をわてど
 万 夕やといふまの心程もまはまこととあやう
 月 曾たまのいれはたを君がまけ一とらうたまり
 代 清のて更りかよの逢とては程をわてど
 六 朝公一巻のいれはたを君がまけ一とらうたまり
 六 何れやのまのうらまはた結いんやとと打とる
 物 恋といふのまの心程もまはまこととあやう
 代 此のうらみはあつた事いふは二枚の愛の巻をたぐり
 万 心いふのまぢりもしりしはたど先ねをいふ年
 今秋は程母うん家分るまうれこの心さ
 うみんと心ひこころを夜をのねかよふを
 代 ありし社にこころはねつれ愛の波かねま一枕と
 どの葉のまをいふゆるまの涙をまの程をわてど
 年四巻てふふのいれはては積りてふに成あふ
 いくとせ小家来ねんをわたりとては君ふ
 ことこの縁のいれはたを君がまけ一とらうたまり
 今とらとんまの心程もまはまこととあやう
 何れやのまのうらまはた結いんやとと打とる
 万 心いふ人ふんとあはせは八定縁をいふ程
 約とくと加中秋のいふまはまの心程をね秋の夕暮

有泉 長方 季経 全真 定伊 魚巻 隆臣 何村 空隆 空家 雲より 長閑人 和泉式部

秋別恋

代 的ねと今めは行くよふまゝいひさしぬらひもせん
和泉式部
後鳥羽院

忘別恋

代 志づけ給のわらうと恨しうまゝいづこ今ハ鴨江羽衣
但馬
と人
と方

急別恋

代 ぬぐのよの夜泣きもあはれづの袖とひとぞ知れぬ
清信
後鳥羽院

思別恋

代 現とよ愛と誰と定むよ世人のいふにせぬと
雲圓
後人
と方

契別恋

代 志れぬ契ひをわらふれをの月と事ばかして
後鳥羽院
不知人
と方

互別恋

代 物 向ふよの契ひをわらふれをの月と事ばかして
高倉
魚捕
後鳥羽院

厭別恋

代 物 志れぬ契ひをわらふれをの月と事ばかして
後鳥羽院
不知人
と方

惜別恋

代 物 志れぬ契ひをわらふれをの月と事ばかして
後鳥羽院
不知人
と方

深更別恋

代 物 志れぬ契ひをわらふれをの月と事ばかして
後鳥羽院
不知人
と方

曉別恋

代 物 志れぬ契ひをわらふれをの月と事ばかして
後鳥羽院
不知人
と方

惜曉別恋

代 物 志れぬ契ひをわらふれをの月と事ばかして
後鳥羽院
不知人
と方

恨別恋

恨馬別恋

遠別恋

夢別恋

夢別恋

夢別恋

嘆歎物下恋

物下恋

物下恋

物下恋

物下恋

物下恋

物下恋

後指 嘆歎の鏡の表うそを吹ゆれ 是と入相と云まじりて 小糸院

代 遠坂の冥越てよも申さ小ははを名に孫のまはれ 忠盛

物 下致とゆははを名に孫のまはれ 忠盛

代 名介ふとぬけははを名に孫のまはれ 忠盛

物 名介ふとぬけははを名に孫のまはれ 忠盛

代 名介ふとぬけははを名に孫のまはれ 忠盛

物 名介ふとぬけははを名に孫のまはれ 忠盛

代 名介ふとぬけははを名に孫のまはれ 忠盛

物 名介ふとぬけははを名に孫のまはれ 忠盛

代 名介ふとぬけははを名に孫のまはれ 忠盛

物 名介ふとぬけははを名に孫のまはれ 忠盛

物 的ぬれどまじり夜ふも中を人の袖をぬく 後指

物 羨望さうぬ余心恨て嘆くを福成の及どぬ 忠信

物 羨望さうぬ余心恨て嘆くを福成の及どぬ 忠信

物 羨望さうぬ余心恨て嘆くを福成の及どぬ 忠信

物 羨望さうぬ余心恨て嘆くを福成の及どぬ 忠信

物 羨望さうぬ余心恨て嘆くを福成の及どぬ 忠信

物 羨望さうぬ余心恨て嘆くを福成の及どぬ 忠信

物 羨望さうぬ余心恨て嘆くを福成の及どぬ 忠信

物 羨望さうぬ余心恨て嘆くを福成の及どぬ 忠信

物 羨望さうぬ余心恨て嘆くを福成の及どぬ 忠信

物 羨望さうぬ余心恨て嘆くを福成の及どぬ 忠信

物 羨望さうぬ余心恨て嘆くを福成の及どぬ 忠信

物 羨望さうぬ余心恨て嘆くを福成の及どぬ 忠信

物 羨望さうぬ余心恨て嘆くを福成の及どぬ 忠信

物 羨望さうぬ余心恨て嘆くを福成の及どぬ 忠信

思不歸 思啼恋 隨恋

後朝恋

初 恨めくゆらゆら月夜かゝる人ぞおまゝの世にけり 奥平堅吉
 代 ちから肥小ふまづれども一層は春のや花散娘をぞす 中平
 古 せよげはむが君を思ふも秋風を吹流くこそ人見たるが 僕人
 格 ちからふはばあはれも人小ぢくふらふとふり 〃
 代 いかせし世の心なまじき人かゝる世にたゞの心ならずの光 和泉式部
 可 直なる心をたゞしむれば春とてしむる心は春を 五撰
 古 福ねさ秋の葉を思ふまじきらめり思ふ人かゝる世に 世平
 〃 ちからふはばあはれも人小ぢくふらふとふり 千里
 〃 君かゝる世の心なまじき人かゝる世にたゞの心ならずの光 後人
 〃 かさくさすしの思ふまじき心は春を吹流くこそ人見たるが 世平
 〃 ねだりの思ふまじき心は春を吹流くこそ人見たるが 僕人
 〃 とどろろの思ふまじき心は春を吹流くこそ人見たるが 〃
 〃 ねだりの思ふまじき心は春を吹流くこそ人見たるが 〃
 〃 ねだりの思ふまじき心は春を吹流くこそ人見たるが 〃
 〃 ねだりの思ふまじき心は春を吹流くこそ人見たるが 〃
 〃 ねだりの思ふまじき心は春を吹流くこそ人見たるが 〃
 〃 ねだりの思ふまじき心は春を吹流くこそ人見たるが 〃

〃 まさか思ふまじき心は春を吹流くこそ人見たるが 〃
 〃 ねだりの思ふまじき心は春を吹流くこそ人見たるが 〃
 〃 ねだりの思ふまじき心は春を吹流くこそ人見たるが 〃
 〃 ねだりの思ふまじき心は春を吹流くこそ人見たるが 〃
 〃 ねだりの思ふまじき心は春を吹流くこそ人見たるが 〃
 〃 ねだりの思ふまじき心は春を吹流くこそ人見たるが 〃
 〃 ねだりの思ふまじき心は春を吹流くこそ人見たるが 〃
 〃 ねだりの思ふまじき心は春を吹流くこそ人見たるが 〃
 〃 ねだりの思ふまじき心は春を吹流くこそ人見たるが 〃
 〃 ねだりの思ふまじき心は春を吹流くこそ人見たるが 〃
 〃 ねだりの思ふまじき心は春を吹流くこそ人見たるが 〃
 〃 ねだりの思ふまじき心は春を吹流くこそ人見たるが 〃
 〃 ねだりの思ふまじき心は春を吹流くこそ人見たるが 〃
 〃 ねだりの思ふまじき心は春を吹流くこそ人見たるが 〃
 〃 ねだりの思ふまじき心は春を吹流くこそ人見たるが 〃
 〃 ねだりの思ふまじき心は春を吹流くこそ人見たるが 〃
 〃 ねだりの思ふまじき心は春を吹流くこそ人見たるが 〃

金 権もつゝのりそはこゝろ引くふくふきそのふたれ

可成ていおれとらひてつゝありのりさすいそなき

あのおれゆりだつとつゝあつと後つゝあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

既述
出羽編
呼後
景彦
橋政
兼政
家長
宗家
源氏
不知讀人
仁和寺書
元吉書

後朝恨意

後朝切意

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

既述
長清
堀川右
洞院橋政
別当
兼政
宗家
家隆
少將
兼信
兼國
兼人
兼盛
兼光

厭後朝恋

後朝題恋

後朝増恋

違不逢恋

逢不逢恋

^後 恋はうつらうつらと寝るはあまのつらき相ふとて思ふ
^月 恋はあまのつらき相ふとて思ふ
^後 恋はあまのつらき相ふとて思ふ
^鏡 鏡はあまのつらき相ふとて思ふ
^志 志はあまのつらき相ふとて思ふ
^現 現はあまのつらき相ふとて思ふ
^後 恋はあまのつらき相ふとて思ふ
^代 恋はあまのつらき相ふとて思ふ
^後 恋はあまのつらき相ふとて思ふ
^金 恋はあまのつらき相ふとて思ふ
^羽 恋はあまのつらき相ふとて思ふ
^千 恋はあまのつらき相ふとて思ふ

不知後人
 後夏
 恒産
 後人
 若雷
 時相
 世々
 魚鱗
 陸忠
 実能
 因信
 仲実
 梅武

^月 恋はあまのつらき相ふとて思ふ
^後 恋はあまのつらき相ふとて思ふ
^代 恋はあまのつらき相ふとて思ふ
^後 恋はあまのつらき相ふとて思ふ
^金 恋はあまのつらき相ふとて思ふ
^羽 恋はあまのつらき相ふとて思ふ
^千 恋はあまのつらき相ふとて思ふ

東通
 後夏
 内大臣
 陸忠
 魚鱗
 恒産
 後人
 若雷
 時相
 世々
 魚鱗
 陸忠
 実能
 因信
 仲実
 梅武

後上十一

逢後難逢恋

逢はるべきに逢はざればはなればはなれり...
後
逢はるべきに逢はざればはなればはなれり...
代
逢はるべきに逢はざればはなればはなれり...

一會後不遇恋

別後難期恋

會後不會恋

共君後會知何日

絶不逢恋

逢後不逢恋

名立忘

一會後不遇恋... 逢はるべきに逢はざればはなればはなれり...
別後難期恋... 逢はるべきに逢はざればはなればはなれり...
會後不會恋... 逢はるべきに逢はざればはなればはなれり...
共君後會知何日... 逢はるべきに逢はざればはなればはなれり...
絶不逢恋... 逢はるべきに逢はざればはなればはなれり...
逢後不逢恋... 逢はるべきに逢はざればはなればはなれり...
名立忘... 逢はるべきに逢はざればはなればはなれり...

備人名表

与備人名表

備人名表

いそ程に思ふべしんちのきつて入はらふよんり 後人名表

直田川にちまが君が名をさしこむの事はいづれ 元方

君が名れそのふとねき分ぬをいふと人ふなり 忠房

ちりちよ人といふと月事れつらとあつめり 後人名表

ちりあがみ種れいづれとねぬと君名のさしこむ 忠房

大くい名をすまふとねぬと人ふなりとふらふ 忠房

何うその名をさしこむとねぬと人ふなりとふらふ 忠房

金 ちりあがみ種れいづれとねぬと君名のさしこむ 忠房

ちりあがみ種れいづれとねぬと君名のさしこむ 忠房

ちりあがみ種れいづれとねぬと君名のさしこむ 忠房

ちりあがみ種れいづれとねぬと君名のさしこむ 忠房

ちりあがみ種れいづれとねぬと君名のさしこむ 忠房

ちりあがみ種れいづれとねぬと君名のさしこむ 忠房

おのてら風おをがら流されや遠くとまよふをれは 後人名表

よとたお家ねれげれと米油の流る波のさすところ 小町

うたふか思ふつらあつとあつと我ねれがたをどおと 清西

はれゆり人おまふとちりちよ種小家とつと君のさしこむ 忠房

流るれどあつとねれ流るさつとあつとねれおとを 忠房

まらるれどあつとねれ流るさつとあつとねれおとを 忠房

あつとねれおとをいづれとねぬと人ふなりとふらふ 忠房

あつとねれおとをいづれとねぬと人ふなりとふらふ 忠房

あつとねれおとをいづれとねぬと人ふなりとふらふ 忠房

あつとねれおとをいづれとねぬと人ふなりとふらふ 忠房

あつとねれおとをいづれとねぬと人ふなりとふらふ 忠房

あつとねれおとをいづれとねぬと人ふなりとふらふ 忠房

あつとねれおとをいづれとねぬと人ふなりとふらふ 忠房

あつとねれおとをいづれとねぬと人ふなりとふらふ 忠房

大船の波に揺られぬのん... 秋風小舟ありや... 思ひのせせらえ... 舟... 代... 後... 不知人

大船の波に揺られぬのん... 秋風小舟ありや... 思ひのせせらえ... 舟... 代... 後... 不知人

後頭恋

後羽恋
後髮恋
後髪恋

^代美小出で袖のとそめりからしてぬいふふいふて一使きく人
^指思ひつゝとどろくへ一使せよの相のひまうり程いふふ
^物相のいふとほの法であつて小程れぬべき袖のくれ
^代家恋と振れりやの苦味何もわらわぬか四福比
^代ふふいふとぬか落る使き人たつとわらわとふふ
^後恋もすこすこあつて相と人のあつて使あふれり
^古枕より又恋する人たふれ恋を使せぬとてつゝ
^後美小出で恋する人恋を立ぬまは使おそむる袖のくれ
^後恋すすつと使つて美のうきをせむとてつゝ人小恋れぬ
^金あ思ひふくくとつゝと恋する使も美小出で
^全しめらむと使つて雨のあつてぬかをせむとてつゝ
^平つと使お袖のぬかをぬかす人小恋れぬ
^物ととつとあつたぬかをぬかす人小恋れぬと
お使と袖小ぬかをぬかす人小恋れぬ

新増恋
新増恋

後髮恋
後髪恋
後髪恋
増恋
増恋

^代美小出でとつと使お袖と人あつて使きく人
^代思ひつゝとどろくへ一使せよの相のひまうり程いふふ
^物相のいふとほの法であつて小程れぬべき袖のくれ
^代家恋と振れりやの苦味何もわらわぬか四福比
^代ふふいふとぬか落る使き人たつとわらわとふふ
^後恋もすこすこあつて相と人のあつて使あふれり
^古枕より又恋する人たふれ恋を使せぬとてつゝ
^後美小出で恋する人恋を立ぬまは使おそむる袖のくれ
^後恋すすつと使つて美のうきをせむとてつゝ人小恋れぬ
^金あ思ひふくくとつゝと恋する使も美小出で
^全しめらむと使つて雨のあつてぬかをせむとてつゝ
^平つと使お袖のぬかをぬかす人小恋れぬ
^物ととつとあつたぬかをぬかす人小恋れぬと
お使と袖小ぬかをぬかす人小恋れぬ

後日増恋
前日増恋
日増恋
月増恋
入夏増恋
身増恋
長後増恋
法号増恋
閑座増恋
麻衣増恋
虫衣増恋
逢増恋

いさよの昔は地味な感じで、その人の心は...
千 恋はさうの彼がさうなるまで、その人に...
千 日教へたいとせよとて、家来の心を...
千 日さつとて、さういふ心で、さういふ...
千 しまさる。泣か泣か、さういふ心で、さういふ...
千 万にまぬがれ、さういふ心で、さういふ...
千 人志れど、さういふ心で、さういふ...
金 いて、さういふ心で、さういふ...
形 ひとし、さういふ心で、さういふ...
月 おとさ、さういふ心で、さういふ...
上 うつら、さういふ心で、さういふ...
上 ひと、さういふ心で、さういふ...
月 おとさ、さういふ心で、さういふ...
後 ひと、さういふ心で、さういふ...
月 おとさ、さういふ心で、さういふ...
伊 ひと、さういふ心で、さういふ...
后 ひと、さういふ心で、さういふ...
逢 ひと、さういふ心で、さういふ...

逢後増恋
増思恋
切恋

逢後増恋
増思恋
切恋
後日増恋
前日増恋
日増恋
月増恋
入夏増恋
身増恋
長後増恋
法号増恋
閑座増恋
麻衣増恋
虫衣増恋
逢増恋

賢意

古
 “ といふ事お母なるならぬをこゝれと云ふはゆるの事なり
 “ 其の事お母の人の事を秋より先は云ふ事なり
 “ いふ人よそのごとく月華を移しつゝいふ事なり
 “ 世の中の人を花とて移りし要き是れを云ふ事なり
 “ 秋より此の世を去り秋は移りつゝ人の心は此の
 “ 時より移りつゝ人の心は移りつゝ人の心は移りつゝ
 “ いふ事なりとていふ事なりとていふ事なりとていふ事
 “ 身とて是れを移りつゝ人の心は移りつゝ人の心は移り
 “ といふ事なりとていふ事なりとていふ事なりとていふ事
 “ 阿す川をせしむる事なりとていふ事なりとていふ事
 “ いふ事なりとていふ事なりとていふ事なりとていふ事
 “ 移りつゝ人の心は移りつゝ人の心は移りつゝ人の心は移り
 “ まえに云ふ事なりとていふ事なりとていふ事なりとていふ事
 “ 昔月一旬にお母の事をいふ事なりとていふ事なりとていふ事

賢
 “ といふ事お母なるならぬをこゝれと云ふはゆるの事なり
 “ 其の事お母の人の事を秋より先は云ふ事なり
 “ いふ人よそのごとく月華を移しつゝいふ事なり
 “ 世の中の人を花とて移りし要き是れを云ふ事なり
 “ 秋より此の世を去り秋は移りつゝ人の心は此の
 “ 時より移りつゝ人の心は移りつゝ人の心は移りつゝ
 “ いふ事なりとていふ事なりとていふ事なりとていふ事
 “ 身とて是れを移りつゝ人の心は移りつゝ人の心は移り
 “ といふ事なりとていふ事なりとていふ事なりとていふ事
 “ 阿す川をせしむる事なりとていふ事なりとていふ事
 “ いふ事なりとていふ事なりとていふ事なりとていふ事
 “ 移りつゝ人の心は移りつゝ人の心は移りつゝ人の心は移り
 “ まえに云ふ事なりとていふ事なりとていふ事なりとていふ事
 “ 昔月一旬にお母の事をいふ事なりとていふ事なりとていふ事

小町

宗干

徳人之知

皇林院

と漢人

いり

不知讀人

才具女

いせ

能人云

内侍

能通

乃能

小或人

速保書

信安

土佐

俊隆

光光

と漢人

大輔

龍造

江侍

軍卒

内侍

女御

掃部

賢意

賢意

逢後恋

重恋

不恋

晚風催恋

哀催恋

風聲催恋

郭公催恋

秋風催恋

代 此れは小あはれは... 定家
 後 いかんか... 右近
 初 後世に... 貞観
 古 是の... 崇之
 後 此れ... 後人
 子 此れ... 長明
 代 此れ... 鳥内侍
 古 此れ... 崇之
 子 此れ... 後人
 子 此れ... 空人

秋風催恋

驚恋

稀驚恋

時々驚恋

絶後恋

代 此れは小あはれは... 内侍
 古 此れ... 好忠
 古 此れ... 鎌倉右
 代 此れ... 忠孝
 古 此れ... 任
 後 此れ... 権主
 古 此れ... 通舟
 後 此れ... 後人
 古 此れ... 空人

筆恋

世にあらざるは世の中をいふはあつさりし人
 形 心は世を誰と縁もそのすゑをいひし世の光乃らるる
 心は世を誰と縁も世中なるもあつさりて縁も
 心は世を誰と縁も世中なるもあつさりて縁も
 心は世を誰と縁も世中なるもあつさりて縁も
 心は世を誰と縁も世中なるもあつさりて縁も
 心は世を誰と縁も世中なるもあつさりて縁も

兼忠
 家隆
 輔親
 長久
 後人
 貞實
 元良
 貞重
 貞相

負恋

有坊恋

被坊人恋

志為後世坊

愚痴道心
愚痴善提
隠恋

不在隠恋
不在所恋
不在知相

世にあらざるは世の中をいふはあつさりし人
 心は世を誰と縁もそのすゑをいひし世の光乃らるる
 心は世を誰と縁も世中なるもあつさりて縁も
 心は世を誰と縁も世中なるもあつさりて縁も
 心は世を誰と縁も世中なるもあつさりて縁も
 心は世を誰と縁も世中なるもあつさりて縁も
 心は世を誰と縁も世中なるもあつさりて縁も

仁昭
 勝三
 貞人

長久
 貞實
 元良
 貞重
 貞相

千 年たれど夢分り交ふらうらむははらぬ日づくもあはれん
 手月ゝ身分ふそくせぬれどあはれゆきすもあはれ
 心づくゝあはれ年たれどあはれきかへすて夕暮れを
 友ののまじりし縁の年一と致ぬむいむすかたつ
 恋うなぬ分れはうらむど年一むうらむ逢ねんははらぬ
 いきづゝふ歳年ふてぬぬらん程あはれきす一東に松を
 衣せきと旅せいと人るあはれ松をいもく下年之小ち
 歌くまふふはあはれちとあぬ敷くこのあはれむくは
 年月におもぬれ小ぬぬとあはれ後につかともあはれ
 いか汁くくもあはれすあま夜とあはれあはれあはれ
 妻ののあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 年たれぬあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 とぞあはれあはれあはれあはれの峰小蛇のきりあはれ
 ちのあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

中狂

あはれ大臣

太上天皇

頼朝

定家

家康

雅隆

崇徳院

後醍醐

長方

重家

小室お

後鳥羽院

實家

俊成

舊恋

年たれど夢分り交ふらうらむははらぬ日づくもあはれん
 手月ゝ身分ふそくせぬれどあはれゆきすもあはれ
 心づくゝあはれ年たれどあはれきかへすて夕暮れを
 友ののまじりし縁の年一と致ぬむいむすかたつ
 恋うなぬ分れはうらむど年一むうらむ逢ねんははらぬ
 いきづゝふ歳年ふてぬぬらん程あはれきす一東に松を
 衣せきと旅せいと人るあはれ松をいもく下年之小ち
 歌くまふふはあはれちとあぬ敷くこのあはれむくは
 年月におもぬれ小ぬぬとあはれ後につかともあはれ
 いか汁くくもあはれすあま夜とあはれあはれあはれ
 妻ののあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 年たれぬあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 とぞあはれあはれあはれあはれの峰小蛇のきりあはれ
 ちのあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

家隆

太政大臣

重家

長方

小室お

後鳥羽院

實家

俊成

友長

和泉守

新藤

表上五十六

後鳥羽院

いそがしとらんとは空の月日満てく物おしとて

橋政

今この妹をむかひず愛ふのあけふさかひ久しれのと

後人ふか

代わりの年たこせとまは流をそと着て新枕すま

色園

おとぎとくをとおとあやうら一日もさきおとせ

少ね

代わりのまねとてつと流りくる君とては年小くは

守正

あつね物とてはくま年月いふ中たるそなる使

春持

あつねとてはくま年月いふ中たるそなる使

春持

あつねとてはくま年月いふ中たるそなる使

春持

あつねとてはくま年月いふ中たるそなる使

春持

あつねとてはくま年月いふ中たるそなる使

春持

あつねとてはくま年月いふ中たるそなる使

春持

あつねとてはくま年月いふ中たるそなる使

春持

あつねとてはくま年月いふ中たるそなる使

春持

隔川恋

あつねとてはくま年月いふ中たるそなる使

隔川恋

あつねとてはくま年月いふ中たるそなる使

あつねとてはくま年月いふ中たるそなる使

あつねとてはくま年月いふ中たるそなる使

あつねとてはくま年月いふ中たるそなる使

あつねとてはくま年月いふ中たるそなる使

あつねとてはくま年月いふ中たるそなる使

あつねとてはくま年月いふ中たるそなる使

あつねとてはくま年月いふ中たるそなる使

あつねとてはくま年月いふ中たるそなる使

あつねとてはくま年月いふ中たるそなる使

1834

In the month of June 1834
 I was informed by the
 Indian Agent that the
 Indians were about to
 depart for the West
 and that they were
 desirous of purchasing
 some of the goods
 which were on hand
 at the Agency. I
 accordingly ordered
 the necessary articles
 to be packed up
 and sent them
 to the place where
 they were to
 be delivered.

